

パラグアイ内政・外交（2022年8月分）

政治情勢

1 内政

（1）キニョネス検事総長に対する弾劾裁判提起の否決

8月8日、下院は7月に提起され審議が継続されていたキニョネス検事総長に対する弾劾裁判提起を否決した。弾劾裁判に賛成する野党及びコロラド党アブド派は、定足数不足による審議再延期を狙い退席したが、リベラル党の3議員が議場に残り定足数を満たしたため本件に係る投票が行われ、反対28票、賛成15票、棄権3票、欠席34票で否決された。

（2）米国政府によるベラスケス副大統領他の汚職関与認定

8月12日、オスティーフィールド駐パラグアイ米国大使は記者会見を開き、米国政府がベラスケス副大統領他が重大な汚職に関与していると認定した旨の発表を行った、会見直後、ベラスケス副大統領は、副大統領を辞任するとともに、来年4月の大統領選挙の候補から降りるとの意思を表明した。8月16日、ベラスケス副大統領は、大統領候補を辞退する旨の書簡をコロラド党執行部に提出したが、副大統領職については、8月18日に辞任を撤回し、自身に対する捜査について正確な情報を得るまでは辞任しないと表明した。

（3）2023年大統領選挙関連

ア ウィンス公共事業通信大臣の辞任及び大統領選挙立候補

8月13日、コロラド党アブド派は、ウィンス公共事業通信大臣をベラスケス副大統領に代わる大統領候補に指名することを決定した。これを受け、8月16日、ウィンス公共事業通信大臣は、アブド派大統領候補として本年12月18日に行われる党内選挙に専念するため、大臣職を辞任した。

イ 党内選挙に向けた野党の動き

8月9日、ゴンサレス国民会合党党首は、大統領選挙への立候補を辞退し、上院議員選挙に立候補することを発表した。

8月10日、左派連合代表のルゴ上院議員（元大統領）が脳卒中で倒れ、治療のため政界から一旦離れることを余儀なくされた。

8月15日、左派連合の大統領候補として指名されていたマルティネス上院議員は、大統領候補としての立候補を辞退し、上院議員選挙に立候補することを表明した。

8月16日、アレグレ・リベラル党党首は、自身の副大統領候補にヌニェス元都市・住宅大臣を指名すると正式に発表した。

8月30日、野党連合に加わらなかったアセベド前外相は、独立候補として大統領選挙に立候補することを発表した。副大統領候補として、野党連合から離脱したケレイ上院議員

(左派連合) が指名された。

(4) ジュッシオ前内務大臣に対する訴追

8月16日、ジュッシオ前内務大臣は、麻薬密売容疑によりブラジルで拘束されているマルクス・ビウシウス・エスピンドラ・マルケス・デ・パウダ容疑者から賄賂を受け取ったとして検察庁に起訴された。検察庁は前内相の訴追について、ブラジル検察庁からビウシウス容疑者がジュッシオ前大臣に宛てたメッセージの提供があり、メッセージの内容等から、両者に直接的かつ密接な関係があったと推定されると述べた。

2 外交

(1) ペロシ米下院議長の台湾訪問に関するアブド大統領の反応

8月3日、アブド大統領は、ペロシ米下院議長の台湾訪問を受け、自身のツイッターを通じ「パラグアイは、台湾が脅威の対象となっている状況下において、台湾への連帯的支持を表明する。台湾の人々の持つ民主主義的価値は、台湾の属する地域と世界にとっての模範であり、国際社会によって支持されるべきものである。」と表明した。

(2) 米国下院議員団のパラグアイ訪問

8月5日、米国下院議員団がパラグアイを訪問し、アブド大統領と会合した。会合後アリオラ外相は、会合ではパラグアイ産牛肉の対米輸出といった経済関係強化のほか、国際犯罪対応、民主主義、人権、法の支配の強化のための協力も中心テーマとして協議されたと述べた。

(3) コロンビア大統領就任式への出席

8月7日、アブド大統領はペトロ・コロンビア大統領就任式に出席した。アブド大統領は、就任式前にペトロ大統領と会談し、ペトロ大統領の成功を祈る旨伝えた。また、パラグアイはクリーンで再生可能なエネルギーの一大生産国であり、投資にも利点となると述べたほか、国際犯罪対策におけるコロンビア政府の重要性に触れ、ペッチ組織犯罪担当検事がコロンビア旅行中に殺害された事件の捜査への協力継続を要請した。

また、8月8日、アブド大統領は、同じくコロンビア訪問中のラッソ・エクアドル大統領と会談した。両大統領は、政治、経済、外交、経済協力等、すべてのレベルでの二国間関係を強化する必要性があることで一致し、今後、パラグアイ・エクアドル閣僚会合を開催するとした。両大統領は、国際組織犯罪について、すべての国が一致して対応することが必要であり、治安分野の協力を深化させる必要性があると述べた。

(4) パラグアイ・セルビア外相会談

8月7日、コロンビア大統領就任式に同行したアリオラ外相は、同じくコロンビアを訪問

していたセラコビッチ・セルビア外相と会談した。両外相は、二国間関係をさらに強化するため、両国共通の関心事項について協議した。国際情勢についても協議し、国際法及び国連憲章の原則の尊重を再確認したほか、各種国際機関選挙における協力についても改めて確認した。また、農業など各種分野における二国間協力を推進することの重要性を強調した。

(5) インド外相のパラグアイ訪問

8月22日、インドのジャイシャンカル外相がパラグアイを訪問した。同外相はアブド大統領を表敬し、表敬後アリオラ外相は、アブド大統領とジャイシャンカル外相は、教育、エネルギー、食糧生産等、両国に共通するプロジェクトについて協議したと述べた。

パラグアイ・インド外相会談も行われ、会談後アリオラ外相は、パラグアイはアジア太平洋の振興市場への戦略的進出経路として太平洋を見るようになったと述べ、両洋大陸横断道路はこの目的を達成するための鍵となり、パラグアイの経済・貿易交流に更なるダイナミズムを与えると確信していると強調した。ジャイシャンカル外相の訪問はインド外相初のパラグアイ訪問で、60年にわたる両国の外交関係の歴史において重要な出来事であり、また、在パラグアイ・インド大使館も同時に開設され、両国関係は新たな時代に入ったと述べた。

ジャイシャンカル外相は、在パラグアイ・インド大使館の開設は、政治、経済、文化等、両国関係の様々な面の強化により注力することが可能となり、両国関係を更に推進することができると表明した。また、インドとメルコスールは特惠貿易協定を結んでおり、どのようにさらなる製品をリストに加えることができるか検討していること、また、インド企業はパラグアイの低い税率と安価な電力を享受することができると述べた。

(6) ウェルズ米国務省国務次官補代理のパラグアイ訪問

8月23日から25日、ウェルズ米国務省西半球局ブラジル・コノスール・アンデス担当国務次官補代理が当国を来訪した。24日には、サロモン上院議長（コロラド党）、様にエゴ上院外交委員長（コロラド党）、ブサルキス上院議員（リベラル党）、ケレイ上院議員（左派連合）、ケンペル上院議員（アガモス党）等上院関係者と会合したほか、国家押収物品管理庁（SENABICO）を訪問し、ロハス長官との会談及び同庁に保管されている車両等の視察が行われた。また、Han 駐パラグアイ台湾大使とも会談した。

25日には、シルベロ筆頭外務副大臣との会談が行われ、会談後の記者会見において、オストフィールド当地米国大使は、米国政府は、腐敗との闘いのため、査証発給制限、金融面での制裁、身柄の引渡し要請を含む可能な全ての手段を用いる旨改めて表明するとともに、アブド大統領政権及び関連機関との協力を継続する旨述べた。

ウェルズ国務次官補代理はゴンサレス内相とも会談し、会談では、治安、組織犯罪との闘い、コロンビアで殺害されたペッチ検事の事案等につき議論された。さらに、アキノ国家情報局長官とも会談し、アキノ長官は、会談後にツイッターを通じ、同国務次官補代理との

間で「地域の安全についてのセンシティブなテーマ」について会談したと述べた。

(7) アブド大統領のバチカン訪問

8月27日、アブド大統領はバチカンを訪問し、フランシスコ教皇により執り行われた枢機卿叙任式に出席した。今般の叙任式では、アダルベルト・マルティネス大司教がパラグアイ人司教として初めて枢機卿に任命された。叙任式にはアリオラ外相も同行した。

(8) コロンビア大統領車列に対する攻撃への非難

8月22日、外務省はプレスリリースを発出し、コロンビアで発生した大統領車列に対する攻撃について、いかなる暴力行為も断固として拒絶し、法の支配及び民主主義に反する国際犯罪に対処することを改めて約束すること、また、コロンビア政府及び国民への連帯を表明した。

(9) アブド大統領のブラジル訪問

8月31日、アブド大統領はブラジルのフォス・ド・イグアスを訪問し、パラグアイとブラジルを結ぶ「統合橋」の建設現場をボルソナーロ・ブラジル大統領とともに視察した。アブド大統領は、新たな橋の建設はパラグアイとブラジルの統合を強化するものであると強調した。また、アブド大統領は、橋の建設に合わせ、公共事業通信省によりパラグアイ側の補完工事が進められており、橋が建設されるプレジデンテ・フランコ市へのアクセスが改善されると述べた。

統合橋は、両国国境を結ぶ「友情の橋」の建設から57年を迎え、イタイプ二国間公団の8400万ドルの出資により建設が進められている第2の国際橋であり、建設工事の91%が終了しており、2022年11月に工事が完了する予定。

(了)